

# 岐阜市民会館のこれまでとこれから III

## —DOCOMOMO Japan認定プレートの贈呈と祝賀記念の会—

岐阜出身の建築家・坂倉準三が設計した岐阜市民会館（1967年竣工）が DOCOMOMO Japan の選定建築に選定されました。岐阜市民会館では、この55年間で様々なイベントや展覧会・会議が開催され、県民・市民の記憶の一つになっています。海外では、建物が大切に使われ、まちと市民の記憶として活用されています。この市民会館も価値あるモダニズム建築として選ばれたのを機会に、今後もどのように使い続けていくか、日本や海外の事例とも比較しながら考える機会として開催します。当日は、認定プレート贈呈式の後、3月末に大ホールの天井改修工事が完了するなど、常に更新されている市民会館の概要を改めて説明、建物見学会を実施します。その後、2022年11月に開催したイベントへのアンケートやご質問に回答すると共に、参加者の皆さまと市民会館の魅力を共有し、今後の利用について意見交換を行いたいと考えています。建築に興味がある方もそうでない方も、岐阜市民会館をよく利用される方もそうでない方も、是非気軽にご参加いただき、皆様の声をお聞かせください。

**2023年6月11日（日）13時30分～**

**会場 岐阜市民会館（岐阜市美江寺町2-6）**

**会費（資料代+記念品） 一般1,000円、学生500円**

13:30～13:50 認定プレート贈呈式、市長挨拶（予定）など

14:00～14:30 建物概要説明 謡口志保\*、鯨坂徹\*\*

14:30～15:15 建物見学会

15:20～16:30 市民懇談会（前回アンケートへの回答、意見交換）  
司会進行 清水隆宏\*\*\*

※当日都合により、プログラム順序が変更となる場合があります。

**主催：DOCOMOMO Japan**

**：坂倉準三の建築を考える会 in 岐阜**

**後援：岐阜市（申請中）**



DOCOMOMO Japan 選定建築：一般社団法人 DOCOMOMO Japan はこれまでに、国内のすぐれた20世紀のモダニズム建築を264作品選定しています。DOCOMOMO Japan は世界70ヶ国で、近現代建築の保存や記録に取り組んでいる組織の日本支部です。岐阜県内では旧羽島市庁舎が2005年に DOCOMOMO Japan 選定建物となっています。

\*DOCOMOMO Japan / ウタグチシホ建築アトリエ \*\*DOCOMOMO Japan 副代表理事 \*\*\*坂倉準三の建築を考える会 in 岐阜 / 愛知工業大学

# 岐阜市民会館（坂倉準三設計）の保存活動の経緯

2023・5・8 岐阜支部 藤吉

今までの経緯を時系列にまとめてみます。

## 1・ 2022・9月中旬

堀田信夫氏（岐阜市会議員）より電話あり、東京 象地域設計の栗林氏の知り合いの篠田さんという方から 是非お会いして、色々協力お願いできないかとの事。

## 2・ 2022・10月4日 堀田・篠田・清水・藤吉で 会議

岐阜市民会館が DOKOMOMO japanの選定建築に選定された、これを機会に 多くの市民に今後市民会館を どのように使い続けていくか シンポジウムを行う事を決定

\*岐阜県建築士事務所協会 ・岐阜県建築士会・岐阜女子大学・岐阜高専などに案内をする

## 3・ 2022・11月1日

岐阜市長と懇談 堀田・篠田・清水・藤吉 参加

岐阜市の当面の方針

耐震補強も終わり、2023年の4月には大ホールの天井改修も終わる予定なので ここ10年は現状のまま、使用したい。

## 4・ 2022・11月3日

<シンポジウム開催> 講師 鱈坂 徹（鹿児島大学・DOKOMOMOjapan） 謡口 志保（名古屋市立大学）

岐阜市職員、兵庫県、調布市、愛知県、神奈川県、長野市などからの参加もあり 想定した30名ほどから大幅に増え57名の参加あり。

シンポジウム後 市民会館の見学（外観・内部・バックヤードなど） 鱈坂氏の説明にて全員に感想文をお願いし 後で「会」でまとめて返信することとした。

8名の方から シンポジウムや見学会で感じた事、又今まで演劇などで市民会館を利用したり、講演会などで 感じた事が寄せられました。（会場での 質問は含まれていません）

会場にはアマチュアでの演劇関係者の方が多く参加されていたので、演劇を行う上での質問が多かった様でした

<シンポジウム及び感想文の内容> 抜粋

- ・音響が悪い 特に中央部 演劇関係者
- ・控室など（への）動線が悪い 演劇関係者
- ・建築家サイドで選定されている（DOKOMOMO）利用者の意見は取り入れられないのか
- ・悪い所は改修して直せば良いとの考え方に賛成
- ・坂倉さんの業績が中心となっている、むしろ市民の使い方に重点を置き歴史文化的価値を統一的に把握できる 考え方を示してほしい。

など いろんな意見がでました

「詳しくは資料4 「市民会館のこれまでとこれか 2022・11・3 参加者方々からのご意見」を参照してください

シンポジウムの内容は 岐阜新聞・中日新聞などに掲載されました

## <余談>

そもそも市民会館は多目的な使用を目的に設計されました 当時は結婚式場・喫茶店などもありました、高校の入学式や選挙の演説会場や歌謡ショーなどにも使われ岐阜の文化の中心でした。個人的にも労音や労演で 森山良子の歌を聞いた事や高橋竹山の津軽三味線を聞いた事は青春の良い思い出になっています。

又岐阜県は東濃地方を中心に地歌舞伎、中濃地方ではお神楽、根尾地方では 能 などが昔から盛んです。

今でも岐阜市では アマチュアの劇団が 結構ありますので 音響などの問題を見る目は厳しいかもしれません

## <現況のメンバー>

- ・篠田弘子 岐阜生まれ、最近東京から帰郷（聞く所によると三沢浩さん、小林良雄さんは知っている、栗林君とは仕事をしたことがあるとの事）
- ・清水 隆弘 岐阜市在住 愛知工業大学 准教授 ・堀田 信夫 岐阜市会議員
- ・謡口志保 春日井市在住 名古屋市立大学講師 ウグチ建築アトリエ ・藤吉 勝弘 新建岐阜・近松 鷹孝 新建岐阜

「新建岐阜」としても 積極的に参加していきたいと思っていますので宜しくお願いします。